

科目ナンバリング：USE-1-151-04/UTL-1-301-06

**■授業の目的及び到達目標**

教員の基本的な資質としての人間理解の基礎となる発達や学習について理解することを授業の目的とする。具体的には、人間の生涯における発達の過程とその特徴、学習に関する基礎的知識や指導に必要な基礎的な考え方を理解することである。授業の到達目標は、人間の発達の概要及び学習に関する基本的知識や学習活動における指導の基本的な考え方を理解することである。

**■授業計画**

- 1 教育心理学、発達心理学とは何か  
ガイダンスとして、科目概要、受講態度、成績評価等について説明する。
- 2 発達とは何か  
人間の誕生から幼児期までの身体的・心理的発達について考える。
- 3 発達段階と発達課題  
エリクソンの発達理論にもとづいて各時期の発達段階と発達課題について学ぶ。
- 4 身体と運動機能の発達  
人間の運動機能の特殊性、身体発達における個人差と性差などについて学ぶ。
- 5 言語の発達  
話し言葉の起源、前言語期、話し言葉期、書き言葉期、発声に関する障害について学ぶ。
- 6 知覚・記憶能力の発達  
知覚の発達、記憶の仕組み、乳児期・幼児期・老年期の記憶の発達について学ぶ。
- 7 社会性と情緒の発達  
子どもと情緒・感情、社会性と社会化、情緒と社会化、社会化の担い手、向社会性などを学ぶ。
- 8 思考と発達  
ピアジェの認知発達理論、言語と思考、創造的思考、文明と思考について学ぶ。
- 9 動機づけの理論  
動機づけとその種類、動機づけの理論、動機づけが高まるとき・下がるとき、原因帰属を学ぶ。
- 10 知能の発達  
知能の概念、知能の測定、新しい知能研究の流れ、知能の測定要因、知能の発達などについて学ぶ。
- 11 学習の理論  
行動主義の学習理論、認知主義の学習理論、社会構成主義の学習理論について学ぶ。
- 12 教育評価  
評価の意義、知能テストと知能指数 (IQ)、評価基準、様々な評価法の特徴と課題について学ぶ。
- 13 教授と学習  
知識・技能を重視する教授理論、意欲・態度を重視する教授理論などについて学ぶ。
- 14 学級集団～人間関係の発達～  
学級とは、人間関係の発達に教師が与える影響、友人が人間関係に与える影響などについて学ぶ。
- 15 まとめと試験  
授業全体を通したまとめを行った後に、内容の理解を問う学期試験を行う。試験後にフィードバックとしての解説を行う。

**■授業の方法**

基本的には、教科書を用いた講義形式で行うが、パワーポイントによる講義資料を用いるなど、理解しやすいように配慮する。同時に、各回のテーマに沿った学校での事例などをなるべく多く示して、内容を具体的にイメージしやすいようにする。

**■予習・復習**

予習は、教科書の当該授業の単元に予め目を通し、基本用語をしっかりと整理しておくこと。復習は、各回で学んだところをもう一度教科書を確認し、ノートを見直し、必要と思われる事項を書き加えること。

**■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）**

学期末試験（40%）、小テスト・レポート課題（40%）、授業への取り組み姿勢等（20%）を総合的に評価する。学期末試験、小テスト実施後およびレポート課題提出後、それぞれフィードバックとしての解説を行う。不十分な場合には Blackboard を用いる。

**■教科書・参考書**

教科書：桜井茂男、『楽しく学べる最新教育心理学』および『楽しく学べる最新発達心理学』,図書文化

参考書：適宜紹介する。

**■関連する科目**

教職課程の科目（「基礎資格」「教科」「教職」「教科又は教職」）および「心理学A」「心理学B」を修得することが望ましい。